

公開シンポジウム

緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術 コミュニティは何をすべきか？

主催：統合生物学委員会自然史・古生物学分科会

共催：自然史学会連合

後援：日本古生物学会、日本人類学会、日本植物分類学会、生物多様性 JAPAN

趣旨：東日本大震災による自然史標本及びその収蔵施設被害の状況を把握し、迅速な救済を支援するとともに、将来にわたり標本と施設を激甚災害から守るための対策を学術会議に提言するために、情報収集と意見交換を行うことを目的としたシンポジウム(緊急集会)です。

【申込不要、入場無料】

日時：2011年6月6日(月)13:30~17:10

場所：日本学術会議・講堂

<http://www.sci.go.jp/ja/other/info.html>

第一部：1330-1610：今を知る

1330-1335：開催あいさつ.....西田治文(中央大学)

1335-1345：緊急集会の趣旨について.....真鍋 真(国立科学博物館)

1345-1405：文化財レスキューについて.....六川真五(東京文化財研究所)

1405-1425：岩手県の状況報告.....大石雅之(岩手県立博物館)

1425-1445：宮城県の状況報告.....佐々木理(東北大学総合学術博物館)

1445-1505：福島県の状況報告.....竹谷陽二郎(福島県立博物館)

1505-1530：休憩

1530-1550：水族館の事例報告.....岩田雅光(アクアマリンふくしま)

1550-1610：藻類標本8万点の損失事例報告.....吉崎 誠(元東邦大学)

第二部：1610-1700：具体的なアクションプランを作るために、これからを考える

指定討論者：

・佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)

・岡本 真(saveMLAK)

・萬谷宏之(文部科学省生涯学習政策局社会教育課)

・栗原祐司(文化庁文化財部美術学芸課)

進行：西田治文・真鍋 真

+++++

1700-1710：結語：斎藤靖二(神奈川県立生命の星・地球博物館)